

## 地域性を活かしたコミュニティ再生の実践的研究

神戸市伊川谷の桜並木プロジェクトを通じて

### STUDY ON IKAWADANI COMMUNITY RECONSTRUCTION Ikawadani Sakura Project

長濱 伸貴 デザイン学部環境・建築デザイン学科 准教授

水島 あかね 明石工業高等専門学校 建築学科 助教

金 鍾其 芸術工学研究所 特別研究員

橋本 大樹 有限会社 プラン まち さと 研究員

Nobutaka NAGAHAMA Department of Environmental Design, School of Design, Associate Professor

Akane MIZUSHIMA Department of Architecture, Akashi National College of Technology, Assistant Professor

Jong Ki KIM Research Institute of Arts and Design, Fellow

Tomoki HASHIMOTO Planning Office of Town & Country Inc., Researcher

#### 要旨

神戸市西区伊川谷町は、太山寺をはじめ数多くの歴史的資源に恵まれた地域であるとともに、伊川という自然の恵みもある。また、都市と農村の両方の顔を持ち合わせ、それぞれの長所を生かしたまちづくりに取り組んでいく必要がある。しかし、最近では、犯罪の増加・空地・空き家・不法投棄等の問題が起り、日本の現代の問題の縮図のようになっている。今後の社会情勢の変化も見据えながら総合的に伊川谷町全体の活性化を検討するため、住民、団体、企業等を主体とした、伊川谷の地域活性化を考える会の設置を行った。

本研究では、地域の特性を生かして地域コミュニティの再生が行われるプロセスを実践的に構築することを目的とする。

#### Summary

Ikawadani - cho, Nishi-ku, Kobe-city is also in the blessing called Ikawa of nature with the area where it was blessed with plenty of historical resources besides Taisanji temple in a mountain. Again, it is necessary to have two element of the city and farm village, and to be grappling to the MACHIDUKURI which revived each merit. It comes however, the problem of the increase, vacant ground, unoccupied house and illegal abandonment and others of crime to happen, so for recent days to be the epitome of Japanese today problem. Resident, group, company and others become a subject, the Ikawadani community meeting is set, in order to examine the activation of Ikawadani whole synthetically while also the change in future society situations is staring fixedly.

It does to construct the process which the revival of area community is done by the town making which revived the peculiarity type of area actually with the purpose.

## 1) 目的

神戸市西区伊川谷は、太山寺をはじめ数多くの歴史的資源に恵まれた地域であるとともに、伊川という自然の恵みもある。しかし、最近では、犯罪の増加・空地・空き家・不法投棄等の問題が起こり、日本の現代の問題の縮図のようになっている。

伊川谷の地域住民が2005年より伊川千本桜の会を中心に桜並木プロジェクトを実践している。

伊川千本桜の会は、住民参画による桜の育成プロセスから緑豊かな美しい伊川をつくり新旧住民の交流を図る事を目的とした会である。

本研究は、新旧住民の交流が不足し地域のコミュニケーションが不足しているため、「地域性」「地域交流」の2つの視点から、桜育成のプロセスから新旧住民の交流を図り、地域コミュニティの再生を行なうことを目的とする。

## 2) 研究の方法

神戸芸術工科大学は、2006年より継続して実践している伊川千本桜の会のコミュニティマネジメントを行っている。

主に今年度は、桜維持管理の仕組みづくり、伊川千本桜の会の活動周知、伊川谷にある既存市民団体との連携、桜祭りの計画を行った。

## 3) 「伊川千本桜の会」の実践

## 3-1 桜の維持管理の仕組みづくり

これまで、伊川に植樹された170本の桜の維持管理をどうするか、しっかりとした仕組みが作られてこなかった。そこで、桜のオーナーや地域ボランティアの協力を得て、維持管理の仕組みづくりの検討をおこなった。

桜の維持管理の仕組みについて「水遣り・草刈りの実施期間」、「水遣り・草刈りの実施の周知方法」、「水遣り・草刈りの方法」の3点を検討した。

「水遣り・草刈りの実施期間」について、桜の特性を考え夏中心に行う事を決めた。8月7日、14日、21日、28日、9月4日、11日の17時から計6回実施した。

「水遣り・草刈りの実施の周知方法」について、伊川谷地域は高齢化が進んでおり、メール、ホームページでの情報周知は難しく、ハガキを郵送し参加の呼びかけを行った。また、伊川を愛する会と連携し各自治会への協力を求めた。

「水遣り・草刈りの方法」について、水遣りの方法は貯水タンクの水を手持ちバケツに入れ1本ずつ桜に水を撒くという方法で行った。

草刈りの方法は、伊川全域の草刈りを住民の手で行う事は不可能であるため、桜が植えられている範囲の中で桜の周りの草刈りを行った。



図1：水遣り・草刈りの様子

## 3-2 「伊川千本桜の会」の活動周知



図2：のぼり

今年度の伊川千本桜の会の活動において、神戸芸術工科大学が協力し活動周知のために多くのデザインを実施した。

のぼりの作成（図2）

伊川千本桜の会が活動を行っている現場で目印となるようにのぼりを作成した。

ポケットティッシュの作成（図3）

伊川千本桜の会の活動周知のために配布を行った。ブログにアクセス出来るQRコードを付け携帯電話からでもブログが見られるようデザインした。



図3：ポケットティッシュ表裏

桜祭りのチラシ（図4）

桜祭り開催に伴い、フリーマーケットの出店者の募集や桜祭り開催の告知を行う為、チラシのデザインを行い伊川谷を中心としたエリアの新聞に折り込まれた。ここでは、チラシのデザインまでをサポートした。



図4：桜祭りチラシ



図5：伊川千本桜の会ロゴ缶バッジ  
成した。この缶バッジは桜祭りに来場した方に配る予定。

伊川千本桜の会の缶バッジ（図5）

伊川千本桜の会のロゴマークを周知する目的で、缶バッジを作

ブログの開設（図6）

伊川谷地域以外の方に伊川千本桜の会の活動周知を行うためにブログを開設した。



図6：ブログトップページ

3-3 伊川を愛する会との連携

伊川谷には、既存の市民団体伊川を愛する会（以下、愛する会）があり、伊川千本桜の会は愛する会の第9部に所属している。愛する会は、夏のリバーフェスタ開催や伊川のクリーン作戦を実践している。

伊川千本桜の会は愛する会との連携強化のためにリバーフェスタでの出店やクリーン作戦への参加を行った。

3-4 桜祭りの計画

新旧交流を図るイベントとして伊川桜祭りを開催している。桜祭りの実施は2010年4月4日(雨天順延：4月11日)を予定している。桜祭りの開催に向けて①プログラム②配置計画③機材の手配等の役割分担④イベント・フリーマーケットへの募集の方法の4点が主に検討された。

桜祭りのプログラムとしては、伊川音頭保存会による伊川音頭の披露、フリーマーケット、野菜市、花卉市、豚汁の振る舞いを予定している。フリーマーケットへの出店者の募集の際には、先述したチラシやブログ等を用いてイベントの周知と共に参加者を募った。

また、イベントを盛り上げるためのパフォーマンスを行う出演者への声かけを行い、伊川谷中学校吹奏学部、朝霧太鼓の2団体の参加が新たに決定した。

配置計画については、昨年まで開催していた会場を変更したため、今年度では新たに本部の場所やフリーマーケットのブースの配置などの配置計画の検討を行った。

4) まとめ

本研究は、桜育成のプロセスから新旧住民の交流を図り、地域コミュニティの再生を行う目的の一環としてブログ、缶バッジ等を用いて活動周知と桜の維持管理の仕組みづくりを行った。本年度に関しては一定の結果が出たが、この活動を継続的に行うかの検討は出来ていない。伊川千本桜の会の活動が地域に認知されてきている中で、継続して活動出来る組織づくり、地域の人々が参加しやすい仕組みづくりの構築が必要になる。